

	ない状況であるので、万一の際の指定避難所（上福島小学校、金蘭会中学・高等学校）等への避難訓練や、予告なしの園内訓練も行った。 また、今年度は地震及び津波の訓練として、上福島小学校まで歩き、実際に避難をする予定の教室へ逃げる訓練も行った。来年度もご協力をいただき、実際に園外への避難訓練も実施し、有事に備えていきたい。
・ 家庭との連携	・保育内容や子どもたちの園での様子を知っていただくために、インターネットによる会員限定の写真公開、販売を行っている。参観や公開行事では何うことのできない普段の様子を知って頂くよい機会になっていると考えている。かつて問題のあった、一度の掲載枚数や掲載回数も見やすい様に工夫し、掲載日程の固定化も図った事で、安定して閲覧出来る様になった。 また、日々の保育をわかりやすく写真付きのもので掲示できるシステム(コドモン)で、写真付きのより分かりやすく保護者の方にも“保育の見える化”を図ることが出来るようにしている。 ・子ども達の事や当園の活動内容等も知って頂き、地域の方々ともより良い形で連携を取れる様にとの思いで、当園が作成している“園だより”を、近隣の小学校等に向けて送付していたが、より迅速に、さらに内外に広くお知らせする意味でも、当園のホームページに個人名等は伏せた簡易版の園だよりを掲載する様にした。今後も、様々な所と連携を図って行きたい。
・ 預かり保育の充実	・昨年同様、夏期預かり保育を行った。利用者は延べ422人であった。また通常保育時の預かり保育では平均14人、全園児の24%が利用していた。 これらは保護者の仕事や用事がある際に利用されることはもちろんだが、子どもたち同士の交流の場ともなり、預かり保育ならではのゆったりとした時間、異年齢児との関わりの中で、様々な遊びが発展していく光景を垣間見ることが出来るものである。昨年度同様、日数を5日間として春期・冬期にも預かり保育を行い、大多数の方が利用されていた。今後も、引き続き継続して行きたい。
・ 環境設備の充実	・ 毎年の園庭樹木の剪定や消毒、ピアノ調律に加え、今年度は、回旋遊具の点検及び握り手の修繕を行った。また、昨年度に、性被害防止対策として購入した、パーテーションを活用し、身支度をする場所、自由活動をする場所を区切り、導線を作ることで、活動の切り替えを自ら意識することができていた。その他、体幹を鍛えるための運動器具も活用している。また、各クラスの保育室に、それぞれの発達段階に応じた玩具も導入し、保育環境の充実を図った。また、今年度より受け入れを開始した満3歳児のために、保育机や保育椅子も新たに購入し、安全に活用できていた。今後も、より良い環境の充実を、積極的に計って行きたいと思う。

4. 学校評価の具体的な結果や計画の総合的な評価結果、および今後取り組むべき課題

・教職員は各クラスの実態の把握、そこから、保育案の作成、実施、反省と一連の流れの中で保育を行うことが出来る様心掛けた。 その中で、園児一人一人に必要な援助を、研修や園内の協議で分かち合ったことも踏まえ、実践するよう努めた。 教師が定めた目標に達しないこともあったが、それを受け止め、子どもたちと共にどのように成長していくことが出来るかを考え、次に活かすことが出来る様、引き続き努力したい。 ・今後も、行事やその他、様々な事についてどの様に行っていくか、おひとりお一人と寄り添いながら、園として、出来る限り誠心誠意の対応を続けて行きたいと思う。 ・子どもたちの安全への教育に関しては、ここ数年来の大きな課題となっている。特に降園時の交通マナーに関して、近隣の方たちから厳しいご意見をいただいていたという経緯もあり、保護者の方にもご理解・ご協力を頂き、子どもたちの安全のためにも、引き続きの意識付けをしていく必要があると思う。特に、降園後、制服のまま遊びに行く姿が多く見受けられているので、小学校に行くようになった際、下校途中で家に帰らず制服のまま遊びに行く癖にもつながる為、積極的に注意喚起して行きたい。 ・家庭との連携に関しては、保護者の方と協力しつつ、保育、行事も少し形を変えたりしながらではあったが、行う事が出来る様に努めた。特にご協力をお願いする様な行事でも、保護者の方は子どもたちの豊かな成長のため、教師と協力し支えて下さった。日頃は、登園・降園の短い時間の中ではあるが、家庭での様子や園での様子を少しずつでも伝え合い、今後もわかちあうことが出来れば…と思っている。 ・今年度は、社会科見学会を園内で行い、当園の給食会社様と共催の【味噌づくり体験】を行った。たくさんの保護者の方が参加し、貴重な体験をしながら、交流も楽しむことが出来ていた。また、給食試食会も同日に行い、食育についても教えて頂ける良い機会となった。また、今年は“あいき・いきいき・フェスタ”で、更に範囲を広げて開催する事が出来た。役員の皆様と連携を取りつつ、様々な事柄に対してご理解・ご協力を頂け、ご迷惑をお掛けした事も多々あったかとは思うが、全ての行事をこなすことが出来た事は、本当に感謝であった。 ・地域との連携に関しては、コロナ渦で開催が叶わなかった金蘭会高等学校・中学校との交流会も持つ事が出来、年長児はお姉ちゃん先生たちと、楽しいひと時を過ごすことが出来た。上福島小学校のグラウンド使用不可期間中に、今日までの様な連携を取らせていただき、良好な関係性も築く事が出来、それによって、運動会の開催日の雨天時予備日のお話までも可能となった事は、非常に有難く思う。高潮の場合の避難所としての連携も取らせて頂いており、今後も友好な関係性を続けて行きたい。 また、コロナも終息した今、更に善き交流を持てる様、広く内外に当園の事を知って頂ける様、個人名等を伏せた形での“園だより”を、ホームページへ掲載する事としたので、これからも引き続き地域の方々と共に寄り添い、互いに支え合って行ければ…と思う。 ・今年度から、午前保育の日程を大幅に減らし、給食の日数も増やした。その時間、保護者の方が育児の疲れを癒したり、子どものために研鑽を積める時間になっていれば、幸いだと思う。これからも、保護者の方々の環境の変化（就労状況等）をしっかりと見つけつつ、職員が研鑽を積む機会も確保しながら、常に“こどもが まんなか”で、行っていけたら…と、強く願う。 ・今年度より、満3歳児保育を新たに導入した。そのための職員配置、専用の保育机や保育椅子で安全に過ごせるよう整えた。年少組で共に活動することで、年少児が満3歳児を思いやる姿や、活動内容も、発達段階を考え、少し内容を変えたで行い、互いに学びのある環境で保育を行うことが出来たと思う。来年度も、引き続き可能な限り満3歳児を受け入れ、兄弟姉妹が少なくなっている現代の家庭環境の中にあっても、小さいお友だちを思いやる“優しい心”“や、お兄ちゃんお姉ちゃんに対する”憧れの気持ち”“を日頃から育む事の出来る、より良い環境の一環として、提供して行ければ…と思う。

5. 学校関係者評価

*2026年4月24日(金) 9時45分～ 2025年度 学校関係者評価委員会 開催
特段の指摘事項も無く、10時15分に無事閉会した。
公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。